

## 2021年9月5日CS中高科奨励原稿

### ローマの信徒への手紙 12章 1~8節「イエス様の体の一部分として」

皆さん、おはようございます。いかがお過ごしですか。

今、東京パラリンピックが開かれています、選手の皆さんの活躍がすごいね。——といっても、私はせいぜい夜のTVニュースで結果をまとめて見るくらいですが。それでも、体のどこかしらに不自由のある選手が、それでいわゆる健常者のようにスポーツができないとあきらめるのではなく、ほかの自由がきく体の部分を思い切り用いて競技する。だから、人間って、思いのほか深く広い能力や可能性——いわゆる“賜物(たまもの)”がありそう。そんなことを私は思います。

それが、けさの聖書箇所とどうつながるかですが、すなわち、周りの人たちと同じことができないからといって、自分が役に立たない人間とあきらめるのはまちがっているということ。ひとりではできなくても、チームを組む、言いかえると「キリストに結ばれて一つの体を形作」ることで別の可能性が現れてくる——というより、人間とは、そういうものだということ。

さきほどパラリンピックを取り上げましたが、普通のスポーツでも同じことで、たとえば野球やソフトボールは9人のメンバーが同じポジションにあるわけではないし、サッカーもゴールキーパーはともかく、ほかの10人の選手もそれぞれ役割が決まっている。15人で戦うラグビーも同じ。体育会系だけでなく文化会系にしても、オーケストラ、吹奏楽団、ロックバンド、どれもみんなそれぞれ違う楽器を演奏して一つの音楽を奏でる。……別に、大人数全員で何か種類の楽器一斉に演奏するのも、それはそれでおもしろいですが、それではその楽器を演奏できない人の賜物が音楽にいかせず、音楽の幅が広がらない。

このことは、皆さんが今後社会に出て働くようになると(そのころどんな世の中に変わっているかはともかく)、大いにわかるはずですが。実際には人間関係やらお金やらがからんで複雑ですが、いまはその基本的なことを教会でリハーサル中だと思ってください。「自分を過大に評価してはなりません。」とあるように、人間ひとりで何でもできるとしたら大間違いだからね。……何だかそう思い込んでいる権力者が世界のあちこちにあるようですが、私たちとて、そう勘違いしない保証はない。ともあれ、だから、上福岡教会だけでも、牧師、長老、執事だけでなく、教会学校をはじめ、いろいろな役割や奉仕活動があり、多くの教会員が参加活動している。教会というイエス様の体の一部分としてね。

もちろん、なにかしらの理由でそういった奉仕ができない教会員もいることを忘れてはいけない。そのときは、ほかの教会員が代わりを果たすことになる。……といって、特定の人に奉仕が集中すると、その人はパンクしちゃいますが……誰とはいいません、ダレとは。

でも、パラリンピックに話を戻すと、パラアスリートが活躍できるのは、選手個人個人の努力だけでなく、多くのサポーターがあつてこそ。たとえば、ブラインドマラソンという競技がある。目の不自由な選手が42.195 kmを走るけれど、ひとりでは走るのは無理。だから、伴走者という役割の人がついて、目の見える人が選手の目の代わりを務める。つまり、パラアスリートと伴走者が一緒に同じ距離を走るわけ。そういう多くのサポーターがパラリンピックを支えていることは忘れてはいけないね。

## 2021年9月5日 CS 中高科奨励原稿

### ローマの信徒への手紙 12章 1~8節「イエス様の体の一部分として」

できないことをやれとか、必要以上のことをしろとか、そんなムチャを神様は命じておられません。そんなことをしたら競技だとケガをするし、組織だとパンクします。そうではなく、できることは賜物として喜んでおこなう。それが「キリストに結ばれて一つの体を形作る私たちに神様が求めておられることだと、今日は覚えてください。